

戦時性暴力サバイバーのナディア・ムラドさんがノーベル平和賞を受賞して戦時性暴力問題が大きな話題になっています。ヤジディー教徒のムラドさんはISに捕らわれ性奴隷にされました。幸いにも「地獄」から生還した彼女の願いは「いつかハーグの裁判所で、加害者の目をまっすぐ見据えながら、彼らが私たちにしてきたことを世界に伝え、コミュニティ全体の癒やしにつなげること」だそうです。彼女が「求めるのは復讐ではなく、正義」で、そのために声をあげ続けると言っています。

日本軍「慰安婦」サバイバーのみなさんも名乗り出た時からまったく同じことを訴えてきました。しかし、日本政府は歴史の事実を認めず、彼女たちの心に届く謝罪をしていません。そして、「日韓合意」によって「最終的かつ不可逆的解決」として終わらせようとしています。被害者は韓国だけではなくアジアの各地におられ、日本政府が自分たちに何をしたのかを聞きに来るのを待っています。また、国際社会は「#Me Too」をはじめ女性の人権問題に関心が高く、この問題を記録・継承する活動をしています。

しかし、「慰安婦」問題に向き合っただけでなかった日本政府は、ムラドさんの平和賞受賞に関して、己れの問題という自覚はなく「基本的人権を守る視点からしっかり取り組む」とおごりな発言をただけです。ムラドさんの声を自分たちに向けられた声と受け止め、日本軍「慰安婦」制度の加害国として将来にわたって歴史の事実を記憶・継承し、その責務を果たすよう政府に求めましょう。

写真家の安世鴻さんは、日本軍によって戦地に置き去りにされ、帰れないまま高齢になった被害女性の元に行き、話を聞きながら写真を撮り続けています。私たちがまだ知らない女性たちが戦後をどうやって生きて来られたのかを聞きましょう。

多くの方のご参加をお待ちしています。

安世鴻さんが出会ったアジアの日本軍性奴隷サバイバーたち



安世鴻さん プロフィール

1971年、韓国江原道生まれの写真家。

ドキュメンタリー写真家として、中国残留朝鮮人の日本軍性奴隷サバイバー・障がい者・人権問題など、社会的マイノリティをテーマに写真を撮影、発表。特に日本軍性奴隷被害については、東ティモール、インドネシア、フィリピンなど5か国・130人以上の被害者に会って証言や写真を記録し、この問題を提起する活動を行う。

著書に『<自肅社会>をのりこえるー「慰安婦」写真展中止事件と「表現の自由」』（共著・岩波ブックレット973）、『重重：中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の物語』（大月書店）、他

ドーンセンターへのアクセス

